北山本門寺所蔵の日興筆要文集について

本間俊文

一　はじめに

僧侶の修学における基本的方法の一つに、経論釈からの要文抄録が挙げられる。高木豊氏によれば、中世天台僧の修学の一形態として要文抄録・抄録要文の集成（修学成果としての要文集）があり、それが基盤となって一層高次な要文集（著作撰述としての要文集）が作成されたと指摘している。[1] 伝来する要文・要文集の存在は、僧侶における修学の実態を知るための重要な手掛かりと言えよう。

日蓮教団においても、宗祖日蓮を始めとして直弟子・孫弟子が書き遺した要文・要文集が種々伝来している。その中で今回は日蓮本弟子（六老僧）の一人・白蓮阿闍梨日興（一二四六―一三三三）筆の『雑々要文』を取り上げる。本書は北山本門寺（静岡県富士宮市北山）に所蔵される未刊の要文集であり、本書に関する先行研究もごく僅かの日蓮直弟子文書である。近時幸運にも本書を調査する機会を得、その全容を仔細に窺うことができた。

本書の筆者や書誌に関する考察、および翻刻については別稿に譲ることとし、[2] 本稿ではこの度の調査結果に基づいて、『雑々要文』の構成と内容を中心に検討を試みる。そして、日蓮直弟子文書の一つである本書の考察を通して、初期日蓮教団における修学の実態解明に向けた一助としたい。

二　『雑々要文』の構成と内容

『雑々要文』は墨付一八丁の冊子本一冊で、終始要文と図表で構成される要文集である。形式的には、日蓮「一代五時図」各種・『和漢王代記』や日興『諸宗要文』・『法門要文』等の要文集に類似するものと言える。

本文中、合点が付される箇所が六箇所確認できるが、これらは内容から判断して日興の地の文と考えられる。同様の事例として、日興『開目抄要文』において、抄録される日蓮の地の文の始まりにすべて合点が付されていることが挙げられる。[3]『雑々要文』においても、おそらく抄録した経論釈と地の文を区別するための措置として合点が書き込まれたのだろう。

印度學佛教學研究第六十七巻第一号　平成三〇年十二月

『雑々要文』の内容を細分して順に記せば、左記の通りである。なお、頭の算用数字は通し番号、その下の要は要文、図は図示、地は日興の地の文を表している。

1 要『和漢朗詠集』漢詩文二首
2 要『山門申状』
3 地
4 要智顗『法華玄義』
5 図四意趣
6 図四悉檀
7 図摂受・折伏
8 要湛然『法華文句記』
9 要智顗『法華文句』
10 要湛然『止観輔行伝弘決』
11 要最澄『守護国界章』
12 図安然『教時諍論』（諸宗）
13 要左思『蜀都賦』
14 要『礼記』鄭玄注
15 地
16 要智顗『法華玄義』
17 要湛然『法華玄義釈籤』
18 要『法華経』方便品
37 要『菩薩地持経』
38 要湛然『法華文句記』
39 要灌頂『大般涅槃経疏』
40 要灌頂『大般涅槃経疏』
19 要最澄『法華秀句』
20 図三蔵教
21 要『阿毘達磨倶舎論』
22 図声聞（七賢・七聖）
23 図四教（蔵・通・別・円）
24 図八教（化法四教・化儀四教）
25 図化法四教
26 図化儀四教
27 要『阿毘達磨倶舎論本頌』
28 地
29 要『阿毘達磨倶舎論本頌』
30 図五陰
31 図十法界（六道・四聖）
32 図菩薩願（惣願・別願）
33 図惣願（四弘誓願）
34 図別願
35 要『大般涅槃経』
36 要『大智度論』
46 要湛然『法華五百問論』
47 要湛然『法華文句記』
48 要『法華経』法師品
49 地
41 要湛然『法華玄義釈籤』
42 要『大般涅槃経』
43 図『孝経孔伝』五刑
44 要『孝経孔伝』五刑章
45 要『孝経孔伝』孝優劣章
50 地
51 地
52 図三一権実論争
53 図浄土経典

※『孝経孔伝』＝『古文孝経孔安国伝』

このように、本書は五三の要文・図表・日興の地の文で構成されている。また、抄録される文献は経典や論書の他、天台宗関係、儒教関係、中国文学関係の文献、詩歌集が確認でき、仏教書以外からも抄録されていることが窺える。本書の概要をまとめると、大体次のような内容になるだろう。

・弘教の方軌に関する説示（5―7）
・逆縁下種に関する説示（8―10）
・中国文献の引用と説示（13―15）
・二乗作仏に関する説示（16―19）
・蔵教の声聞の修行階位に関する説示（20―22）
・天台所立の化法四教・化儀四教に関する説示（23―26）
・三千大千世界に関する説示（27・28）
・衆生の構成要素と迷悟の境界に関する説示（29―31）
・惣願・別願に関する説示（32―34）
・仏と国土（浄土）に関する説示（35―42）
・不孝・不敬に関する説示（43―45）
・法華最勝に関する説示（46―49）

このように、本書は一貫したテーマのもとに作成された要文集というよりは、仏教の教義理解を深めるための様々な要文を図表と共に示した要文集と見ることができるだろう。そういった視点から言えば、本書はある程度の時間経過の中で順次抄録されながら作成された可能性も考えられる。

なお、本書には日興による題号は見られない。すでに坂井法曄氏が先行研究において本書に『雑々要文』との題号を付しているが、[4] 前述の通り抄録される要文の種類やその構成が多岐に渡っていることから、内容的にも妥当と考えられるため、本稿でも『雑々要文』という題号を採用した。

三　『雑々要文』と他文献の関連

ところで、要文集の成立を考えるとき、著者が底本に用いた文献が何であったのかを明らかにすることは、当時の修学環境や法門継承の実態解明へとつながる重要な課題である。このような目的のもと、続いては『雑々要文』の記載内容と他文献との関連性について検討を試みたい。

『雑々要文』所収の要文が抄録される他の日蓮教団諸師の文献を挙げれば、左記の通りである。上段に『雑々要文』所引の要文、下段に他の日蓮教団諸師の文献を示した。なお、対象とした日蓮教団諸師の下限は、在世期間が日興在世と重なっている門下までとした。また、傍線を付した文献は、真蹟または直弟子写本が伝わらない日蓮遺文を表している。

〔要文〕

2 山門申状
9 法華文句
10 止観弘決
12 教時諍論
16 法華玄義
17 法華玄義釈籤
19 法華秀句
34 涅槃経
36 大智度論

〔所収文献〕

日全『正義抄』第十六（『叢』一三―二一七）
日蓮『注法華経』（『定注』五三〇）
日順『用心抄』（『宗全』二―三二一）
日全『正義抄』第九（『叢』一一―二四二）
日蓮『聖愚問答抄』（『定遺』三六二）
日蓮『身延山御書』（『定遺』一九一九）
日順『用心抄』（『宗全』二―三二九）
日法『御法門御聞書』（『聞書』三六）（類文）
日全『正義抄』第十五（『叢』一三―九四）（類文）
日蓮『注法華経』（『定注』一三〇、三三〇）
日蓮『天台肝要文集』（『対照録』下一九九）
日蓮『注法華経』（『定注』一三〇、三三一）
日蓮『天台肝要文集』（『対照録』下二〇〇）
日蓮『釈迦一代五時継図』（『定遺』二四六九）
日法『聖人之法門聴聞分集』（『宗全』一―一一四）
日法『御法門御聞書』（『聞書』九〇）
日蓮『真言見聞』（『定遺』六五九）
日蓮『真言宗私見聞』（『定遺』二〇七五）
日蓮『今此三界合文』（『定遺』二二九一）
日蓮『注法華経』（『定注』一八二）（部分）
日向『金綱集』第六（『宗全』一四―五四三）
日全『正義抄』第十六（『叢』一三―一二三）
日蓮『釈迦一代五時継図』（『定遺』二四五六）（類文）

日蓮『今此三界合文』（『定遺』二二九一）（類文）
日全『正義抄』第十六（『叢』一三―一一三）
日蓮『真言宗私見聞』（『定遺』二〇七五）

37菩薩地持経

日蓮『真言見聞』（『定遺』六五八・六五九）
日蓮『法華大綱鈔』（『定遺』二〇五〇）

38法華文句記

日蓮『真言宗私見聞』（『定遺』二〇七五）
日蓮『注法華経』（『定注』一五五）
日向『金綱集』第十三
（『宗全』一三―二三七・二三八・二七〇）
日全『正義抄』第十六（『叢』一三―一二三）
日順『念真所破抄』（『宗全』二―三六六）
日蓮『今此三界合文』（『定遺』二二八九）

39大般涅槃経疏

日蓮『一代五時鶏図（西山本）』（『定遺』二三三九）
日蓮『一代五時鶏図（妙覚寺本）』（『定遺』二三五九）
日蓮『釈迦一代五時継図』（『定遺』二四五六）
日昭『申状』（『宗全』一―八）
日進『破浄土義論法華正義』（『宗全』一―三五一）
日全『正義抄』第十三、十五、十六
（『叢』一〇―二九四、一三―八、一三―一三五・一七〇）
日蓮『今此三界合文』（『定遺』二二八九）

40大般涅槃経疏

日蓮『一代五時鶏図（妙覚寺本）』（『定遺』二三五九）
日蓮『釈迦一代五時継図』（『定遺』二四五六）
日春『与光尊御房書』（『宗全』一―一四九）
日全『正義抄』第十五、十六
（『叢』一三―六、一三―一七〇）
日蓮『今此三界合文』（『定遺』二二九一）（類文）

41法華玄義釈籤

日蓮『注法華経』（『定注』四六二）
日興『玄義集要文』（『興全』八五）（類文）
日蓮『小乗小仏要文』（『定遺』二三二二）（類文）

44孝経孔伝

日蓮『注法華経』（『定遺』四一三）

46法華五百問論

日法『聖人之法門聴聞分集』（『宗全』一―一三四）
日法『本迹相違』（『宗全』一―一四〇～一四二）
伝日弁『円極実義抄』下（『宗全』一―六六）
日全『正義抄』第八（『叢』一一―一四五）
日蓮『三種教相』（『定遺』二二四六、二二五二）
日蓮『一代五時継図』（『定遺』二四二四）
日蓮『注法華経』（『定注』一八）
日全『正義抄』第二、五、十八、二十
（『叢』一二―四四・六三、一二―二七八、一四―四八、一四―一七一・一七八・一九六）

47法華文句記

日蓮『十法界明因果鈔』（『定遺』一八三）
日蓮『大田殿許御書』（『定遺』八五三）
日蓮『一代五時継図』（『定遺』二四二四）
日蓮『釈迦一代五時継図』（『定遺』二四六〇）
日興『法門要文』（『興全』五九）
日像『訴状』（『宗全』一―二四七）

48法華経

※『正義抄』＝『法華問答正義抄』

以上、管見の限りではあるが『雑々要文』所収一八要文が三〇文献六四箇所において確認することができる。

まず、要文の一致が多く見られる文献として、日全『法華

問答正義抄』が最も多く、一八要文中一〇要文の引用が見られる。『法華問答正義抄』の成立は正慶二（一三三三）年頃から康永三（一三四四）年なので、『雑々要文』より後に作成された文献である。次いで『注法華経』八要文、『今此三界合文』・『釈迦一代五時継図』各五要文、『真言宗私見聞』三要文と続いている。右の一覧中、日蓮が釈尊一代の教説を天台の五時教判を元に図示要説した「一代五時図」は四種類見られるが、各々の要文数を合わせると一〇要文の一致が見られる。日蓮が法華経に諸経論釈の要文を注記した『注法華経』や、日蓮が講義の現場で用いたと考えられている各種「一代五時図」と引用文が多く一致するのは、日蓮の教導を受けた直弟子作成の要文集の内容としては自然なことだろう。

これらの要文の内、44孝経孔伝・48法華経法師品の抄録については、日興『玄義集要文』・『法門要文』に同内容の引用が見られる。日興が著した複数の要文集に同様の抄録が見られることから、日興が同一の底本から抄録した可能性が想定される。また、19法華秀句の抄録は、日蓮『釈迦一代五時継図』では「秀句下云」、日法『聖人之法門聴聞分集』・『御法門御聞書』では「秀句云」との文に続いて引用される。これについて禅智院日好『録外微考』が「本文未レ見。可レ考。秀句上本廿二、三有二相似ノ文一」[5]と述べる通り、『法華秀句』下には該当箇所が見当たらない。よって、日興はここでは『法華秀句』ではない別の底本を用いた可能性が考えられる。

一方、図表に関しては坂井法曄氏が、5四意趣・6四悉檀・7摂受折伏（勝鬘経）と二紙（一丁裏―二丁表）に渡って続く一連の図表と日蓮『断簡二五〇』[6]が同内容であること、また日興『玄義集要文』にもこれと類似の記述が見られることを述べ、それぞれの関連性を指摘している。[7]『断簡二五〇』は西山本門寺所蔵の日蓮『一代五時鶏図』（西山本）の紙背から相剝されたものだが、[8]その西山本を写したとされる日興写本『一代五時鶏図』（北山本門寺所蔵）にも『断簡二五〇』と同内容が記載され、さらに日興『雑々要文』・『玄義集要文』にも同内容・類似文が記載されるのである。日興が執筆したこれらの諸書に同内容が記載されることから、日興が執筆の際にいずれかの文献を参照した可能性は高いと考えられる。

この他、25化法四教の中で示される菩薩五十二位の図表は、日蓮『一代聖教大意』・『五十二位図』・『断簡三五三』[9]等に類似の表記を見ることができるが、全く同一の表記ではないので、これらの関連性については判断し難い。

ここまで、『雑々要文』の記載内容と他文献との関連性について検討を試みた。当然、抄録文の一致のみで底本と即断することはできないが、本書の抄録と同内容の記載を有する日蓮教団諸師の文献が多数伝来していることを考えると、少なくとも日興が本書執筆に際して何らかの教団内の文献を参

照したことは確実だろう。

四　おわりに

以上、本稿では日興『雑々要文』に着目し、その構成と内容を中心に考察した。日興による修学成果の一つとして作成された本書は、上述した通り初期日蓮教団における修学の実態を伝える貴重史料であり、その全容が今回把握できたことは、今後の研究進展に大いに裨益するだろう。

本稿では確認に留まった箇所もあったが、要文集に抄録される要文等を分析した事例を積み重ねることによって、これまで多くの課題を残していた日蓮教団諸師の修学とその周辺の事柄がより明確化できるのではないかと考える。その点は今後の研究課題としたい。

1　高木二〇〇八、六六―七二頁。　2　本間二〇一八。3　本間二〇一七、四頁。　4　坂井法曄「鎌倉期成立の宗論書と要文集について」興風談所定例勉強会発表レジュメ、二〇一二。　5　本満寺一九七五、九二三頁。　6『定遺』二九五五頁。　7　坂井二〇〇二、二六頁。　8　寺尾一九九七、一八一頁。　9『定遺』六三・二九一二・二九九七頁。

〈一次文献〉
叢…『興風叢書』興風談所、二〇〇六―二〇一〇
定注…山中喜八編『定本注法華経』法蔵館、一九八〇
対照録…『日蓮大聖人御真蹟対照録』立正安国会、一九六八
聞書…日法聖人御所持本調査委員会編『御法門御聞書』光長寺、一九九〇
興全…日興上人全集編纂委員会編『日興上人全集』興風談所、一九九六

〈二次文献〉
高木豊『日蓮弦』山喜房仏書林、二〇〇八
本間俊文「史料紹介　白蓮阿闍梨日興『雑々要文』（北山本門寺所蔵）」『興風』第三〇号、二〇一八
本間俊文「北山本門寺所蔵『開目抄要文』について」『日蓮教学研究所紀要』第四四号、二〇一七
坂井法曄「日興写本『一代五時鶏図』をめぐって」『興風』第一四号、二〇〇二
寺尾英智『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』雄山閣出版、一九九七
本満寺編『録外考文・微考』本満寺版日蓮宗全書、一九七五

〈キーワード〉　日蓮、日興、雑々要文、要文集

（立正大学専任講師・博士（文学））